

SPECIAL CROSS TALK

「世のため人のため」を決意し、
これまでもこれからも
常に挑戦する
企業であり続ける

25th Anniversary

竹内 香苗
社外取締役



北尾 吉孝
代表取締役 会長 兼 社長 (CEO)

創業25周年を迎えるSBIグループのこれまでの成長の軌跡と、
今後もより良い社会の構築に貢献していくグループであり続けるために大切なことについて、
社外取締役の竹内 香苗氏とグループ代表の北尾 吉孝が意見を交わしました。

25年の歴史を振り返って

竹内: このたびはSBIグループ創業25周年
おめでとうございます。25周年を迎えられ
て、創業者としてどのようなお気持ちですか。

北尾: ありがとうございます。25年経ちまし
たが、創業時の決意でもある「世のため人の
ため」になることを遂行するということは変
わらずにやってこられたかなと思っています。
1999年に創業して、「日本版金融ビッグ
バン」と「インターネット革命」という二大潮
流に乗って、金融サービス事業を中心に飛
躍的な成長を遂げてきたわけですが、根底
には常に「顧客中心主義」の徹底があり、真

に顧客の立場に立ったサービスを提供する
ことに取り組んできました。そうした姿勢が
お客さまから評価され、今日のSBIグループ
に繋がっていると思っています。

竹内: 私は2020年にSBIホールディング
スの社外取締役に就任しましたが、グルー
プへの理解を深める中で、その先見の明の
確かさと実行力に凄みを感じています。今
後の日本にとって重要な経済活性化、国民
の資産形成、先端テクノロジーの育成、地
方創生、医療、教育などの領域において、
創業当時より未来の課題を見据えて、事業
に取り組まれ貢献されてきたことと思いま
す。SBIグループの事業構築の基本観の一

つに「金融を核に金融を超える」がありま
すが、インターネット金融の先駆けとしてス
タートしたSBIグループの軌跡は、まさに
金融の可能性の幅広さと社会への貢献度
の高さを表しているのではないのでしょうか。

北尾: 私は創業当時からテクノロジーを
徹底的に信奉していて、テクノロジーを通
じて既存の秩序を破壊し、金融業界に大き
な革新を起こそうと考えていました。その
テクノロジーの中心がインターネットであ
り、2016年頃にはインターネットを核とす
る金融生態系を完成させました。その後も
ブロックチェーンやAI、ビッグデータなど
の新技术が次々と誕生してきていますが、



“

北尾

**25年でここまで成長できたのは、
社会のためにという信念によって
良きご縁を多く得られたから**

”

そうした新技術を都度取り込みながら、SBIグループは成長を続けてきました。

竹内：最近では、オンラインでの国内株式の売買委託手数料をゼロにするSBI証券の「ゼロ革命」や、半導体関連事業への参入など、SBIグループのみならず社会にとってどのような意義があるかを常に考え、挑戦と進化を続けていることもグループの強みであると思いますが、如何でしょうか？

北尾：おっしゃる通りです。社会やお客さまのためになる取り組みを続けてきたことこそ、SBIグループが25年でここまで成長できた原動力であると感じています。例えば、国内株式の売買委託手数料を無料化するなどということは、今ある証券会社の多くが立ち行かなくなるような取り組みであって、本来ならば非常に強い摩擦の生じる話です。しかし、お客さまにとってはメリットしかない話であり、SBI証券の口座数は1,300万を超えています。この1,300万超のお客さまが我々の味方になるわけです。お客さまの支持があったからこそ、実現できた取り組みであると思っています。こうした社会のためにという信念があったからこそ良きご縁を数多く得て、特にこの5年間では、変革のスピードを一気に加速させることができたと感じています。

SBIグループが 永続的な事業体であるために

北尾：私は、SBIグループが今後何十年、何百年と続いていく事業体であって欲しいと願っています。そしてそのためには、我々だけではなく日本全体が明るく隆々としていないといけません。しかし、残念ながら現在は、為替を見ても34年ぶりの円安水準となり、名目GDPでも世界第4位にまで後退するなど、国力は衰退の一途を辿っています。これをもう一度どうにかしないといけない。だからこそSBIグループでは「公益は私益に繋がる」という理念のもと、グループを挙げて地方創生戦略に取り組んでいるわけですし、「金融を核に金融を超える」という理念のもと、産業のコメと呼ばれる半導体関連事業に参入したのです。あらゆる経済活動の裏側には金融が付いて回るわけですから、その核となる役割を果たしていくことが、金融コングロマリットであるSBIグループに求められていることであり、それが結果としてSBIグループの更なる成長、延いては日本経済の再興へ繋がっていくものと確信しています。

竹内：今北尾さんがおっしゃいましたように、金融業を通じた社会への貢献ということが、SBIグループが社会から期待されていることであると、私自身も強く感じています。特に近年は、投資を通じた資産形成や資産運用への関心が高まっていますが、SBIグループの掲げる「顧客中心主義」の徹底に基づいた、革新的かつ多様な金融商品・サービス提供への期待も今後ますます高まっていくと思います。こうした状況下において、今後重要になってくるのは、人材を含む経営資源の確保・拡充と、持続的な事業成長のための適切なリスク管理体制の実現だと認識しています。前者については、働きやすい職場環境の整備や各種制度の拡充等を通じた取り組みが進められていますが、今後一層海外事業にも注力す

ることを踏まえると、グローバルな視点を取り込むことがますます重要になってくるのではないのでしょうか。後者に関しては、今後、今以上に多様な事業内容・規模のグループ企業が国内外で事業を展開していくことを考えると、グループ全体を網羅するガバナンス体制の構築が重要であると思います。社外取締役の一人として、社外からの視点を取り込みつつ、自身の国際経験等を活かした提言を行っていくことができると考えています。

北尾：竹内さんには2020年から社外取締役に就任いただいておりますが、これまで金融とは全く異なる経歴を歩んでおられますし、国際経験も豊富にお持ちで、我々金融業界の人間にはないような新しい視点から、ご意見やご提案をいただけていると感じています。今後SBIグループが事業領域を一層拡大し、グローバルに成長していく上では、多様なバックグラウンドを有する社外取締役の皆さまからの示唆に富むご意見がますます重要になってくると思っています。今後ご助力の程、よろしく願いいたします。

竹内：ご期待に沿えるよう頑張ります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

“

**SBIグループの軌跡は
金融の可能性の幅広さと
社会への貢献度の高さを表している**

竹内

”

